

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 2 年度高松市放課後子ども総合プラン運営委員会
開催日時	令和 2 年 1 1 月 6 日（金）午前 1 0 時 0 0 分～正午
開催場所	高松市役所 1 3 階大会議室
議 題	（１）高松市放課後子ども総合プラン運営委員会委員長の互選及び副委員長の選任について （２）放課後児童クラブについて （３）放課後子ども教室について （４）放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型について
公開の区分	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
上記理由	
出席委員	生嶋委員、石原委員、川田委員、静委員、野上委員、野町委員、本多委員、前田委員、松井委員、宮井委員、岡谷委員、中谷委員、河邊委員 計 1 3 人
傍 聴 者	0 人 （定員 5 人）
担当課及び連絡先	子育て支援課放課後支援係 8 3 9 - 2 3 5 4

会議の経過及び結果

議題（１）放課後子ども総合プラン運営委員会委員長の互選及び副委員長の選任について

高松市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選により委員長を、委員長の指名により副委員長を選任した。

委員長 松井委員

副委員長 宮井委員

議題（２）放課後児童クラブについて

放課後児童クラブについて事務局から報告し、次のとおり意見があった。

（委員）

市内全体のどれぐらいの児童が学童に入っているのか。学年別の割合を教えてください。

今後、共働き家庭が増えていくことが見込まれ、どの学年の児童が待機児童となっているのか把握できていなければ、待機児童は減らない。待機児童を減らすためには、放課後児童クラブの施設を増やすことしかできないのか。

（事務局）

学年別については、今すぐにはお答えできないが、今後、学童を利用される見込みの人数を推計した結果、このような待機の現状であるため、施設整備が必要であり、今後 5 年間の計画を定めているところである。全体の児童数が減少し、それに伴い、クラブ入会希望者数も減少するというのであれば、待機児童も減少すると思うが、一方では、共働き家庭が増え、クラブ入会希望者数は増加していることから、その共働き家庭の増え幅を見込んで、施設を整備していく必要があるという状況である。

会議の経過及び結果

(委員)

公設のクラブの新規開設等の情報を、事前に民間のクラブや保護者に通知してもらうことは可能か。

(事務局)

新しく公設のクラブを開設する内容については、学校の教室、支援員等の確保が確定しないと通知ができない状況である。お知らせできる状況になれば、早めに情報を共有していく。

(委員)

放課後児童クラブについて、制度上は、6年生まで受け入れ可能となっているが、保護者の認識としては3年生までとなっているように感じる。実際は、この資料の待機児童数以上に、ニーズがあるのではないかと。

校区という縛りを取り払い、空いている学校の空き教室等を使用して放課後児童クラブを運営することで待機児童を減らすことができるのではないかと考える。

(事務局)

最初に質問いただいていた、各学年の放課後児童クラブの利用割合について、各学年ではないが、全体としての割合としては、17パーセントの児童が放課後児童クラブを利用している。

(委員長)

小1の壁が大きなテーマとなっているが、高松市では、実際には、3・4年生の待機児童が多く、国の指標と高松市の課題は大きく違っているように感じている。

高学年までを受け入れることによって、子どもたちが自立的に考えていき、クラブ職員と一体となって、どういった運営体制が良いのか、考えていくことができるのではないかと。

議題(3) 放課後子ども教室について

放課後子ども教室について事務局から報告し、次のとおり意見があった。

(委員)

校区によって差があるのが現状である。どこが主体となってやっていくのか示していかなければならない。放課後子ども教室を拡大、拡充していくことばかりを進めていくと、結果としては、学校が行うようになってしまう現状があるということを認識しておいてほしい。

(委員)

コーディネーターの中でよく問題として挙がっているのが、人材不足である。

最近では、高校生がボランティアとして夏休み中に参加してくれたり、香川大学経済学部のゼミ生が月1回ゼミの活動の一体として参加してくれたりしている。手探り状態で行ってきたが、少しずつ活動が活発化してきている。なによりも、子どもたちが教室を楽しみにしてくれていることで、やりがいを感じている。今後も、子どもたちがのびのびと活動できる場所を作って、より良いものとなるように努めていきたいと思う。

(委員長)

人材不足ということであれば、2年前から香川大学教育学部と高松市が協定を結んでいるため、その協定の中で、仕組み作りをしていくことは、可能であると思う。

会議の経過及び結果

(委員)

人材不足で未実施校区があることやボランティアで実施している校区があり、なぜ人材不足が発生しているのかという原因をはっきりすべきである。

また、学生のボランティアに協力してもらうことは、子どもたちにとっても年齢が近く、関わりやすいと思うが、核となる組織作りがないと、学生たちも動くことができない。市からきちんとした仕組みを支持しなければならないと思う。

(事務局)

委員の皆様から人材不足について御意見をいただいたが、教室を拡充するにあたっての課題だけでなく、既に開設されている校区においても多く課題があるという認識ができた。

また、新規開設する校区に働きかけをしていく中で、組織を作る段階が特に難しいという御意見が多いという状況もある。既に開設されている校区をモデル校区として示し、他の校区に広めていけないか考えていきたい。大学や地域との橋渡しとして、高松市が協力できることがあれば、内部で活用していければと思う。

(委員長)

校区の中でのリソースや校区を超えたりリソースがマッチングできる仕組みができれば、コーディネーターも活用しやすいのではないかなと思う。

(委員)

子どもの生活の質をこのような会で考えていくようにしていきたい。放課後児童クラブの低学年の児童は、人間関係を学んでいく大切な時期であるため、そのような時期をきちんと見ていける人材がとても重要だと思う。

(委員長)

保育の現場でもそうであるが、質よりも量と考えることがあり、実際、後から質について議論があるかといえば難しい状況もある。質の確保もしながら、量を増やしていくということが重要である。

議題（４）放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型について

放課後子ども教室と放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型について事務局から報告し、次のとおり意見があった。

(委員)

一体型で実施することで、児童クラブの児童は、異学年の児童や普段遊ぶことができない児童と活動できるため、とても良い居場所であると感じている。

ただ、一体型によるトラブルもあるため、もっと放課後児童クラブ職員と放課後子ども教室関係者が密接に打合せ等をすべきであり、放課後児童クラブの職員も放課後子ども教室の仕組みや役割を認識することが大切であると思う。

(委員)

放課後子ども教室と放課後児童クラブの一体型は難しく、新しい仕組みを作っていかなければ、地域にお任せされても大変厳しいと思う。

自身が関わっている校区では、地域の思いを繋げるために学校が主体となって、放課後子ども教室と放課後児童クラブを繋げ、放課後児童クラブに負担をかけないように放課後子ども教室が主に動き、地域の大学の協力を得ながら、活動を企画し、見守り等をPTAの方をお願いをして、実施した。実際、そこまで学校が主体となってやっていかないと、繋がっていくことは難しいと感じた。

会議の経過及び結果

(委員)

一体型の運営に関する指標が必要であり、学校にお任せするという時代ではないのではないか。

(事務局)

運営していく中で連携が取れていない等、課題が多く見られるが、それぞれの現場の意見を共有し、機能できるように改善できればと思う。

また、新子ども総合プランでは実施校区を増やしていくことを目指している中で、実施校区数が34校区中10校区という実態は、いろいろな課題があつての割合だと受け止めなければならないと思っている。

(委員長)

放課後児童クラブにおいても小1の壁という国の課題と高松市の実情は違い、一体型においても、大人側がバタバタしている状態で質の良い居場所は作れず、結果的に子どもたちも十分な活動ができない。まずは、それぞれの活動を充実させ、質の良い場所となるようにしたほうがよい。そこから先に一体型を増やすことを計画的に進めていくことにしたら良いと思う。

(委員)

自身が関わっている校区では、卒業されたPTAの方や地域の方々にもボランティアとして参加をお願いして運営をしている。

また、一体型もしており、メリットとしては、地域行事として放課後子ども教室を引っ張っていけることである。年2回、放課後児童クラブ職員と放課後子ども教室の活動内容や児童の情報共有を行い、トラブルを防ぐようにしている。難しいことは考えず、子どもがどのような体制で楽しむことができるかを考え、学校と地域が一体となることが大事であるように思う。

(委員)

自治会や子ども会等、各地域の団体が減少している。その中でも高齢者が多く、区内をあげての一体型への協力は難しくなっている。今後の対策を見据えないと、話が進まない。地域として、もっと考えていかなければならないと思う。

以上